

7 キャンパス等充実に関する事項

7-(1) 施設・設備・備品等について

キャンパス施設の整備については、長期計画に基づく事業の実施により、3 キャンパスそれぞれの特性を伸張させる施設・設備の整備を行った。具体的には、深草・大宮学舎では、既存施設の改修により教育・研究活動の環境整備と学生の厚生福利施設の整備・充実を図った。特筆すべき事業としては、キャンパスの活性化につながる深草学舎中央広場工事で、キャンパスアメニティを整備したことである。瀬田学舎では、平成 18 年度に智光館を完成し、第 4 次長期計画に基づく研究の高度化支援や学生の厚生施設の整備充実を図った。同時に、これらの整備事業における機器・資材の選定に際しては「ひとにやさしい」「省エネ・省資源対応」機器を採用し、さらにバリアフリーに対する配慮を行うなど、ユニバーサルデザインを考慮して実施した。

また、課外活動施設整備については、南大日グラウンドにおいて施設・設備面から充実を図り、さらに、平成 19 年度も南大日グラウンド整備事業を継続して実施する。

教育研究設備・備品については、公的外部資金の補助を受けつつ、教育研究の高度情報化を推進しており、具体的には、マルチメディア教室の整備や高速ネットワーク網等の学内 LAN 整備の実施を行った。

1) 深草学舎における施設・設備・備品等の整備

施設の整備については、平成 14 年度の構想から始まった「深草キャンパス修景事業」が深草学舎中央広場改修工事として平成 18 年 10 月に竣工した。この整備事業では、太陽光発電・雨水循環利用・リサイクル材で作られたインターロッキングの採用など環境問題やバリアフリーに配慮しながら、キャンパスアメニティを整備した。また、深草学舎の中央に位置する図書館では、バリアフリーに関する補助金事業を受けつつ自動ドア設置工事を実施した。さらに、深草体育館では経年劣化（竣工後 36 年経過）した給排水衛生設備を改修し、身体障がい者対応トイレや省資源装置を付加して事業を実施した。

設備・備品の整備については、深草学舎 3 号館での教学展開を勘案して、マルチメディア機器の更新・整備を行った。なお、この事業は「私立学校施設整備費補助金」の採択を受けている。

2) 大宮学舎における施設・設備・備品等の整備

施設の整備については、重要文化財であり本学のシンボルとも言うべき大宮本館において雨水の浸水等が確認されたため、文化庁の許可を受け改修工事を行い、教育研究施設として活用している本施設の保全を行った。また、平成 17 年度から引き続き西翼新棟給排水管改修工事（第 2 期工事）を実施した。さらに東翼 1、2 階照明器具取替工事では、自然光を感知し消費電力を抑制する省エネ対応器具を採用し省エネに配慮しつつ設備の更新を実施した。

設備・備品の整備については、私立学校施設整備費補助を受け、マルチメディア事業（東翼 205 教

室に常設ノート型パソコンを設置)した。さらに、食堂厨房機器の更新事業を実施した。

3) 瀬田学舎における施設・設備・備品等の整備

研究施設・図書館書庫施設・厚生福利施設の3要素を持つ智光館が竣工した。地下1階には「アフラシア平和開発研究センター」を、1階には丸善書店・龍谷大学生活協同組合瀬田ショップの厚生福利施設を、2階には研究部事務室と共同研究室2室・個人研究室7室を配置している。書庫施設は地下1階から2階まで吹き抜け空間となるスペースを設置した。厚生福利施設の智光館移転に引き続き、青雲館1階及び青志館2階の食堂拡充と屋外ステージ前広場に膜屋根式のライトシェードを設置した。また、計画最終年度となる3年目瀬田学舎洋式便器洗浄便座設置工事を実施し、瀬田学舎のほぼ全ての建物に洗浄便座付の洋式便器を備えることができた。

理工学部・理工学研究科の専門研究設備である「理工学部超高速ネットワーク設備」及び「レーザー光によるマルチスケール弾塑性ひずみ場計測システム」、第3期HRCの研究設備である「物理特性評価システム」他5設備、「マイクロ波・ミリ波伝送特性試験設備」他4設備等の大型実験装置の調達を実施した。

4) その他の施設・設備・備品等の整備

南大日グラウンド整備事業は、課外活動支援の一環とし長期事業計画に基づき実施されたものであり、既存の南大日グラウンド(以下、第1グラウンドという)と平成17年度に取得した隣接グラウンド(以下、第2グラウンドという)を課外活動施設として有効に利用できるよう整備した。第1グラウンドには、フルコートとハーフコートの2面を人工芝グラウンドとして整備した。ここで選定した人工芝は、南大日グラウンドで活動しているラグビー・サッカー・アメリカンフットボールの各競技に対応でき、またプレーヤーにとって安全性の高い仕様のものである。第2グラウンドは、平成18・19年度の2ヶ年度事業として整備を行っており、平成18年度はクレーコートグラウンドとして整備を行った。引き続き平成19年度には照明設備等の付帯設備の整備を行う予定である。

7-(2) 情報システム関係について

平成18年度は、まず「ユビキタス教育環境整備事業」の中心課題としてWeb系の各種サービス(ポータルサービス、Webシラバス、Web履修登録)の開発に取り組んだ。平成18年12月以降の試験利用期間を経て、平成19年3月15日より順次サービスインを実施した。また、もう一つの大きな課題として、eラーニング関連の取り組みに力を注いだ。大学教育開発センターの指定プロジェクトとして「教育とIT」というテーマで数人の教員と情報メディアセンターによる合同プロジェクトチームを作り、授業展開にLMS(Learning Management System)がどの程度役立ち、どのような効果をあげられるかについて、オープンソース「moodle」を素材にして、経験交流を交え検討した。さらに授業内容をビデオ収録し、ネット配信するストリーミング配信サービスにも着手し、補講などで活用した事例では一定の効果があったことが、大学教育開発センター主催の平成18年度指定プロジェクト研究報告会において報告された。今後はWebサービスやeラーニングの本格的展開に向けた環境整備や支援体制の充実が必要であると認識している。

1) 基幹ネットワークの整備

新たな情報基盤として整備した無線 LAN のサービスを開始した。利用者には、すでに稼働している全学統合認証サービスとのシステム間連携を通じてセキュリティの確保と利便性の向上を図るとともに、教室を中心とした有線ネットワークの DHCP 化（ネットワークに接続しようとするパソコンに IP アドレスなどの情報を自動的に割り当てる仕組み）を進め、教育の情報化に容易に対応可能なネットワーク利用環境を整備した。また、基幹ネットワークのインターネット接続をマルチホーム化して耐障害性と利便性の向上、安定的な運用を図り、あわせてスパムメール等のセキュリティ対策を講じるとともに、外部プロバイダの見直しを通じてネットワークの増速と新教育・学習用メールサービスの独自運用を開始した。

2) 情報教育環境の整備

深草学舎 3 号館の全ての教室を対象に視聴覚機器等を全面改修し、マルチメディア教育環境を一新した。具体的には、従来からの基本的な機器整備に加えビデオカメラを常設することによって、授業や講演会等の映像・音声を自動収録して容易にデジタルコンテンツ化することが可能となった。また、オンデマンド授業流通フォーラムで試行する授業配信については、平成 19 年度から実施することとした。また、これに関連した事業展開として、通常授業の補完的な機能を果たす数科目のオンデマンド配信を実施し、学生への学習支援を行った。加えて、オープンソースの LMS（Learning Management System）を導入し、e ラーニングの利用環境を試行的に構築して授業へのサービスを開始した。

3) 事務システムの整備

「ユビキタス教育環境」整備に向け、学生と教職員間のコミュニケーション環境基盤を構築すべく、Web 系サービスの開発に着手した。「Web シラバス」については、平成 18 年 12 月より入稿機能をリリース、教学部と連携してデータ整備を行い、平成 19 年 3 月より稼働させた「ポータルサービス」を通じて情報提供を開始した。「Web 履修登録」は平成 19 年 4 月、国際文化学部において先行実施し、同年後期より全学部で実施する予定である。開発作業は次年度も引き続き継続し、更に機能向上に努めていく。基幹系業務システムについては、Web 系サービス展開に必要となる基本情報授受のためのインターフェイス、とりわけ Web 履修登録に向けたデータ連係を中心に開発し、運用を開始した。このほか、履修辞退制度、国際文化学部事前登録、親和会向け修業状況確認表作成、所得税対応、他の対応を行いつつ運用を行った。